【専門分野】

科目名	担当者	実務経験
看護学概論	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次・ 前期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

看護の基本となる概念を理解し、看護学に興味をもち、看護の本質を深く追求する姿勢を養うとともに、専門職として看護のあり方を考える機会とする。

【目標】

1. 看護の定義、法律、要素、役割機能を通して、看護とは何かを考える。
2. 看護実践に役立つ看護理論について理解し、看護とは何かを科学的に追求する姿勢を養う。
3. 看護の対象である人間を理解する看護的視点について学び、対象理解に役立てる。
4. 健康の概念を理解し、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に果たす看護の役割を考える。
5. 専門職の備えるべき要件を理解し、専門職としての看護のあり方を考える。
6. 看護活動の場を理解し、保健医療福祉サービスにおける看護の果たす役割について考える。

【授業内容】

1. 看護とは何か・・・いろいろな定義からみる看護
2. 専門職に求められるもの・・・専門職としての看護、看護職の倫理綱領
3. 看護理論と看護実践・・・看護理論の意義と変遷、主な看護理論の概観
4. 看護の対象としての人間・・・WHO の健康の定義　健康の概念　障害とは
5. 看護の提供者・・・看護職の養成制度、キャリア開発
6. 看護の提供のしくみ・・・提供の場、看護をめぐる制度と政策、看護職者の倫理
7. これからの社会と看護

【教授方法】

一斉講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

使用テキスト：講義時　必ず持参

・系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［1］　看護学概論　医学書院

・日本看護協会監修　看護職の基本的責務－定義・概念/基本法/倫理－ 日本看護協会出版会 参考文献： ・ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの　日本看護協会出版会 ・フローレンス・ナイチンゲール著:看護覚え書　現代社 ・新系統 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 ・中範囲理論入門 第2版 日総研
【評価方法】 客観試験・レポート等
【備考】

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ＩA	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
１年次・前期	30 時間/１単位/ 15 回	講義・演習

【概要】

ＩＡ－１【技術の概念、環境】

看護技術は、対象に対する自身の関心や気遣い、慈しみの気持ちや配慮を「表現する技術であり」、状況が常ならない中で表現される技術は、その時々において工夫と応用を求められる「熟練と修練を要する技術である」。看護技術を学ぶにあたり、技術の概念や看護技術の考え方ついて学ぶ。また、日常生活の援助技術として、生活環境を整える技術を学ぶ。

ＩＡ－２【バイタルサイン】

疾病の診断や治療の指標、看護行為の基準とする上で必要な患者の健康状態を評価するためのバイタルサインを理解し、正しい測定ができるための知識・技術を学ぶ。

【目標】

ＩＡ－１【技術の概念、環境】

１．技術の概念について理解し、看護技術の特殊性と必要性について理解する。

２．人間の健康と環境との関係を理解し、対象に応じた療養生活環境調整の援助ができる能力を養う。

ＩＡ－２【バイタルサイン】

１．バイタルサインの概念を学習することにより、看護におけるバイタルサインの重要性を認める。

２．バイタルサインの測定技術が安全・安楽、正確に行えるための原則および方法を配慮しながら、バイタルサインの測定を実践する。

３．バイタルサインが人間の状態を反映していることに関心を示す。

４．バイタルサインの観察の結果から、対象に必要な看護を列挙する。

５．バイタルサイン測定中に対象が感じる気持ちや感覚に気づきを示す。

【授業内容】

ＩＡ－１【技術の概念、環境】

Ⅰ．看護技術の概念

Ⅱ．環境

１．人間を取り巻く環境

２．健康の維持や疾病回復のために環境が果たす役割

３．療養生活における望ましい環境 Ⅲ．ベッドメーキングの実際 Ⅳ．臥床患者のシーツ交換の実際 Ⅴ．モーニングケアとイヴニングケア ＩＡ－２【バイタルサイン】 Ⅰ．バイタルサインの意義 バイタルサインの観察の必要性 Ⅱ．体温の観察の必要性 体温の正常と異常、変化の判断 Ⅲ．呼吸の観察の必要性 呼吸の正常と異常、変化の判断 Ⅳ．循環状態の観察の必要性 血圧の正常と異常、変化の判断 脈拍の正常と異常、変化の判断 Ⅴ．バイタルサインの測定技術
【教授方法】 一斉講義　演習　グループワーク
【使用テキストと参考文献】 新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 看護がみえる Vol. １　基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる Vol. ２　基礎看護技術　メディックメディア フィジカルアセスメントがみえる　メディクメディア
【評価方法】 筆記試験
【備考】 事前課題あり

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ＩＢ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

ＩＢ－1【安全安楽・姿勢体位】

看護における安全管理の必要性を理解し、対象・家族・医療従事者の安全を守り、事故および感染を未然に防止するための方法について学ぶ。また、人間の活動における基本的な姿勢や体位について理解し、対象に応じた援助を安楽に行うための能力を養う。この単元では、手洗い・体位変換・車椅子やストレッチャーの移動移送の技術を学ぶ。

ＩＢ－2【衣生活・身体の清潔】

人間にとっての衣生活・身体の清潔の意義を理解し、対象に応じた援助を行うための能力を養う。この科目では、寝衣交換・身体各部の清潔の援助技術について学ぶ。

演習では、お互いに患者役を体験し、患者の立場に立って援助するための配慮や思いやりのある行動について考える。

【目標】

ＩＢ－1【安全安楽・姿勢体位】

1. 看護における安全・安楽の意義と重要性について理解する。
2. 看護医療事故の要因とその防止対策について理解する。
3. 感染予防の重要性とスタンダードプリコーションの概念を理解し、感染予防のための方法がわかる。
4. 体位の種類とその特徴を理解し、健康障害が姿勢・体位に及ぼす影響と援助の必要性を理解する。
5. ボディメカニクスの意義と原理について理解し、ボディメカニクスを活用した体位変換の援助の方法がわかる。
6. 褥瘡の発生のメカニズムを理解し、予防するための方法を理解する。
7. 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送の目的と原則を理解し、安全で安楽な移乗移送の方法がわかる。

ＩＢ－2【衣生活・身体の清潔】

1. 人間にとっての衣服着用の意義と、衣生活の援助の必要性を理解する。
2. 寝衣交換の原則と注意事項を理解し、寝衣交換の方法がわかる。
3. 健康な生活における身体の清潔の意義と重要性を理解する。

4. 口腔、皮膚、粘膜に関する解剖生理学の知識を活用しながら、身体各部の清潔の援助について目的・原則・注意事項を理解する。
5. 対象に合わせた方法を選択し、安全安楽に清潔の援助を実施する方法がわかる。

【授業内容】

ＩＢ－1【安全安楽・姿勢体位】

1. 看護における安全・安楽の意義
2. 看護医療事故の発生のメカニズムと事故防止対策
3. 感染予防とスタンダードプリコーション
4. 姿勢の安定性と体位の種類・特徴
5. ボディメカニクスの原理と応用
6. 褥瘡の発生と予防
7. 体位変換の援助
8. 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送の援助

ＩＢ－2【衣生活・身体の清潔】

1. 人間にとっての衣生活と寝衣交換の援助
2. 身体の清潔を保つ意義
3. 口腔の清潔の援助
4. 入浴の援助
5. 清拭の援助
6. 部分浴（手浴・足浴）の援助
7. 洗髪の援助
8. 陰部洗浄の援助、その他

【教授方法】

一斉講義　デモンストレーション　演習

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座　医療安全　看護の統合と実践2，医学書院
新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社
新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社
看護が見える　vol.1　基礎看護技術　メディクメディア

【評価方法】

筆記試験　レポートの提出

【備考】

講義開始時に講義概要の詳細を提示する。

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ＩＣ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次・前期	30 時間/1単位/ 15 回	講義・演習

【概要】

ＩＣ－1【食事・活動と休息】

食事の意義を理解し、食事・栄養摂取のアセスメントができるための基礎的な知識を学ぶ。経口摂取への援助、非経口摂取への援助についても学ぶ。なお経口摂取の援助として、食事介助の実際を一部体験し、より良い食事援助について考える。

さらに人間の健康に不可欠な休息・睡眠、活動について理解し、援助を行うための基礎的知識について学ぶ。

ＩＣ－２【排泄】

人間が排泄をすることの意義とそれに伴う感情を理解し、対象の尊厳を守り、安全・安楽・自立を目指しながら、対象が気持ちよく排泄できるよう、対象の状態に応じた援助（知識・技術・態度）について学ぶ。

【目標】

ＩＣ－1【食事・活動と休息】

1. 人間にとっての食事の意義を理解し、対象に応じた援助を行うための能力を養う。
2. 人間の健康に不可欠な睡眠・休息・活動について理解し、対象に応じた援助を行うための能力を養う。

ＩＣ－２【排泄】

1. 排泄の概念を学習することにより、看護における排泄の援助の重要性を理解する。
2. 排泄の援助の技術を安全・安楽・自立を目指して行えるための原則に沿って、排泄の援助を実践する。
3. 排泄物や排泄の状態が人間の身体面・精神面・社会面を反映していることがわかる。
4. 排泄物の観察の結果や排泄の状態より、対象に必要な看護を理解する。
5. 排泄の援助中に対象が感じる気持ちや感覚に気づき、援助につなげる。

【授業内容】

ＩＣ－1【食事・活動と休息】

Ⅰ. 食事〔栄養と食行動〕

1.食事の意義

2.食事・栄養摂取のアセスメント

3.経口摂取・非経口摂取の援助

Ⅱ. 活動
1.活動の意義
2.活動のアセスメント
3.活動に対する援助
Ⅲ. 休息〔睡眠と安静〕
1.休息の意義
2.安静に対する看護師の役割
3.睡眠に対する援助

ＩＣ－２【排泄】
1. 排泄の意義
2. 排泄のメカニズム
3. 排泄物・排泄状態の正常・異常
4. 排泄に関するアセスメント
5. 自然な排泄（尿・便）を促すための援助
6. 排泄に異常があるときの援助
（失禁があるひとへの援助、浣腸・摘便、導尿、尿・便器の介助）
7. 吸引

【教授方法】
講義　ビデオ　デモンストレーション　演習

【使用テキストと参考文献】
新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社
新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社
看護が見える　vol.1・2 基礎看護技術　メディクメディア

【評価方法】
客観テスト　レポート

【備考】
IC-2　事前課題及び DVD 視聴あり、後日提示する。

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ＩＤ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

この科目は、看護における観察・記録・報告の重要性、コミュニケーションの方法について学ぶ。また、グループワークを取り入れ、その中で自分自身の考え方や感情が観察やコミュニケーションに反映することに気づき、幅広い視野で考えられるようにする。

ＩＤ－１【観察・記録・報告】

観察の必要性を理解し、看護に必要な情報を正しく収集する能力を養う。また、看護を行うために必要な記録・報告の要素を理解し、その重要性を認識する。

ＩＤ－２【コミュニケーション技術】

看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、効果的なコミュニケーションを行うための能力を養う。

【目標】

ＩＤ－１【観察・記録・報告】

1. 看護における観察の重要性を理解し、的確な観察するための方法がわかる。
2. 看護記録の要素を理解し、看護における記録の重要性を認識する。
3. 正確に報告するための方法を理解し、看護における報告の重要性を認識する。

ＩＤ－２【コミュニケーション技術】

1. コミュニケーションの概念を理解し、看護におけるコミュニケーションの意義を認識する。
2. 看護に必要なコミュニケーションのための技法を理解する。
3. ロールプレイ、リフレクションを通し、対象に合わせたコミュニケーションの必要性を認め、看護実践への活用に向けて関心をもつ。

【授業内容】

ＩＤ－１【観察・記録・報告】

1. 看護における観察の意義と方法
2. 看護における記録の意義および目的
3. 看護記録の構成要素と記録様式・記載基準
4. 報告の意義および目的
5. 報告の種類と実際

ＩＤ−２【コミュニケーション技術】 1. コミュニケーションの概念 2. 看護におけるコミュニケーション (1)看護におけるコミュニケーションの意義 (2)コミュニケーションにおける看護師の役割 3. 看護場面での効果的なコミュニケーション技法 (1)聴く (2)対応する 4. 看護実践とリフレクション ロールプレイ　演習
【教授方法】 講義　グループワーク　演習
【使用テキストと参考文献】 **ＩＤ−１【観察・記録・報告】** 新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ｉ　メヂカルフレンド社 **ＩＤ−２【コミュニケーション技術】** 新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ｉ, メヂカルフレンド社
【評価方法】 筆記試験　　課題の提出
【備考】

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術　ＩＥ	専任教師	○

年次･開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次･　前期･後期	30時間/1単位	講義･演習

【概要】

安全・安楽で確実な基本的看護技術を身につける。また、事例患者に必要な援助を実施するための基本的看護技術と態度を、リフレクションを通して修得する。

【目標】

１．安全・安楽で確実な基本的看護技術を修得する。

２．患者により良い援助を行う態度を身につける。

【授業内容】

《演習》基本ベッド　臥床患者のシーツ交換　バイタルサインの測定
体位変換　移乗・移送　寝衣交換　口腔の清潔　足浴　清拭
洗髪　排泄

《技術試験》・ベッドメーキング　・バイタルサインの測定　・部分清拭

【教授方法】

《演習》　学生が患者・看護師となり、看護技術を修得する。
グループ指導

《技術試験》　患者設置に基づき援助を実施し、客観評価を受ける。

【使用テキストと参考文献】

基礎看護技術ＩA、ＩB、ＩC、ＩD　のテキスト、資料、講義ノート等

『基礎看護技術ＩＥ　学習方法』入学後印刷物を配布。

【評価方法】

レポート

技術試験

【備考】

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ⅡA	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・後期	45 時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

ⅡA-1【診察・検査と看護】

診察・検査を受ける対象の不安や苦痛を取り除き、安全・安楽かつ正確に受けられるようにするための看護師の役割や援助方法を学ぶ。また、検査では主に検体検査を取り上げ、必要物品を見ながら検体の採取方法や取り扱いについて理解する。

ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】

創傷管理に必要な基礎知識と、創傷処置を受ける患者の看護について学ぶ。滅菌された機器・衛生材料の滅菌状態を保ちながら取り扱うことの意義と、創傷処置に必要な滅菌物の取り扱い方法を身につける。また、包帯法の目的・原則・巻き方について学ぶ。

ⅡA-3【与薬、薬物・輸液療法と看護　】

薬物療法の意義や与薬、薬物・輸液療法・輸血に関する基礎知識と、看護師の役割を学ぶ。与薬・輸液療法・輸血の種類や目的・方法・看護を学ぶとともに、安全・安心で確実な与薬や看護師の責任について考える。

【目標】

ⅡA-1【診察・検査と看護】

1. 安全・安楽に正確な診察が受けられるよう、診察の目的・方法および看護について理解する。
2. 安全・安楽に正確な検査が受けられるよう、検査の目的・方法および看護について理解する。
3. 看護技術シミュレーターを用いた採血の演習を通し、事故防止や感染予防について学ぶとともに、基礎的知識、態度、安全・安楽かつ確実な技術を身につける。

ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】

1. 創傷の治癒過程および基本的な創傷処置について学び、創傷処置を受ける患者の看護を理解する。
2. 包帯法の目的および基本的な巻き方を理解する。
3. 無菌操作の目的および滅菌物の取り扱い方法を理解する。

ⅡA-3【与薬、薬物・輸液療法と看護】

1. 薬物の作用機序や体内動態など、薬物療法の基本を理解する。
2. 薬物療法の目的と意義を理解し、安全で適切な与薬を行うための注意点を学ぶ。
3. 与薬の種類と、それぞれの目的・方法・留意点および看護について理解する。
4. 注射に関する基本的事項と、各種注射法とその留意点について理解する。
5. 輸血療法に関する基本的事項と、その留意点について理解する。
6. 与薬に伴う危険性を認識し、与薬に対する責任を自覚する。
7. 看護技術シミュレーターを用いた皮下注射の演習を通し、事故防止や感染予防について学ぶとともに、基礎的知識、態度、安全・安楽かつ確実な技術を身につける。

【授業内容】

ⅡA-1【診察・検査と看護】

Ⅰ. 診察時の看護:診察の目的・方法・看護師の役割・準備・看護

Ⅱ. 検査時の看護:検査の目的・種類　検査における看護師の役割　検体の取り扱い上の注意点　検体検査:尿検査・便検査・喀痰検査・腰椎穿刺・血液検査(注射器・注射針・駆血帯の取り扱い)

ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】

Ⅰ. 創傷の治癒過程:創傷の定義・分類と治癒方法・治癒過程のメカニズム・治癒過程に影響を与える因子　治癒過程から見た管理方法の基本

Ⅱ. 包帯法:包帯法の定義・目的・種類　原則　身体各部に合わせた適切な巻き方

Ⅲ. 無菌操作・創傷ケア:原則・注意点・方法・滅菌物の取り扱い方法(鑷子・鑷子立てなど)　創傷ケアの実際:必要物品・環境・患者準備・創傷部位の観察　、処置の方法など

ⅡA-3【与薬、薬物・輸液療法と看護】

Ⅰ. 薬物療法の基礎知識

Ⅱ. 経口与薬の基礎知識

Ⅲ. 外用薬の基礎知識

Ⅳ. 注射の基礎知識①（法的根拠から注射の取り扱い）
注射の基礎知識②（皮内、皮下、筋肉、静脈内注射、点滴静脈内注射）

Ⅴ. 輸液療法を受ける対象への看護

Ⅵ. 注射薬の吸い上げ演習

Ⅶ. 注射の演習（モデル人形を用いた注射の練習）

Ⅷ. 輸血療法の基礎知識

【教授方法】

一斉講義　ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ　技術演習

【使用テキストと参考文献】

ⅡA-1【診察・検査と看護】

新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社

系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院

看護が見える　vol.2　臨床看護技術　メディクメディア

ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】

新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4)　臨床看護総論　医学書院

看護が見える　vol.1　基礎看護技術　メディクメディア

ⅡA-3【与薬、薬物・輸液療法と看護】

新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4)　臨床看護総論　医学書院

系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　医学書院

わかりやすい与薬　テコム

看護が見える　vol.1　基礎看護技術　メディクメディア

看護が見える　vol.2　臨床看護技術　メディクメディア

写真でわかる　臨床輸血の看護　ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｶ

【評価方法】

筆記試験

【備考】

予習・復習を行い授業に臨んでください。

事故を防ぐために注射や採血の器具の取り扱いは専任教師の指導下で行います。練習をする際には担当教師に声をかけてください。

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ⅡB	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・ 前期	30時間/1単位/15 回	講義・演習

【概要】

看護過程（講義）：基礎看護学で学んだ援助を実践する上での思考過程をもとに、臨床で看護実践に活かされる看護過程展開の方法について学ぶ。

看護過程の展開（演習）：事例患者を通し、健康レベルに応じた看護を実践できるよう看護過程の展開の仕方を学ぶ。グループワークを通して、主体的学習力・統合力を養う。

【目標】

ⅡB－1【講義】（10 時間）

1． 看護過程の役割と意義を理解する。

2． 看護過程の構成要素について理解する。

3． 看護過程を展開するための基礎的知識を理解する。

4． 看護過程発展と看護診断について理解する。

ⅡB－2【演習】（20 時間）

1． 講義をもとに、事例患者を通して、看護過程の展開の仕方を理解する。

2． 演習での学びと、今後の実習に向けて自己の課題と方向性を明らかにする。

【授業内容】

ⅡB－1【講義】
1. 看護風・医師風・普通風の問題解決過程
2. 講義・看護過程・実習の関連
3. 看護過程の各段階に必要な能力
4. 看護過程の構成要素＠看護過程を展開するための知識
5. 看護過程発展・・・看護診断の理解
ⅡB－2【演習】 事例患者を通して、アセスメント～計画立案までのプロセスをたどる。

【教授方法】

一斉講義　個人ワーク　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

・新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社

・看護がみえる vol.4 看護過程

【評価方法】

ⅡB-1:筆記試験　ⅡB-2:参加度

【備考】

看護過程は、看護を実践するための道具・ツールです。既習の講義内容を十分に活用し、対象に必要な看護が実践できるよう一人ひとりがしっかり取り組むことを期待します。

グループダイナミックスを発揮し、疑問点を解決しながら一緒にすすめていきましょう。

科目名	担当者	実務経験
基礎看護技術ⅡC	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・後期	30 時間/1単位/15 回	講義・演習

【概要】

看護を行うには、対象の身体状態を正確に観察でき、正常と異常がわかり、生活への影響を考えることが必要になる。本講義では、対象の状況についてアセスメントしていくために必要となる情報を適切に判断し、実際に自身で収集できる基本的な技術を修得する。また、患者の状態が正常か異常かを判断するだけでなく、なぜ異常が起こっているのかも考え、今後どのように対処するのかを考える力を講義や演習を通して身につける。

【目標】

1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的がいえる。
2. 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠となる知識を持つ。
3. フィジカルアセスメントの結果、患者に起こっていることがいえ、必要な看護を列挙できる。
4. フィジカルイグザミネーションの基本的技法が実践できる。

【授業内容】

1. フィジカルアセスメントの概念
2. フィジカルイグザミネーションの基本的技法
3. 全身状態・全身の外観のフィジカルアセスメント
4. 呼吸器系のフィジカルアセスメント
5. 循環器系のフィジカルアセスメント
6. 腹部のフィジカルアセスメント
7. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント
8. 中枢神経系のフィジカルアセスメント

【教授方法】 一斉講義　演習　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

新体系看護学全書11巻　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社

看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメントがみえる　メディクメディア

【評価方法】

筆記試験

【備考】

事前課題あり

科目名	担当者	実務経験
臨床看護総論Ⅰ	専任教師 認定看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・ 前期	30時間/1単位/15 回	講義・演習

【概要】

人間の健康を総合的に理解し、対象が自ら健康状態を回復・維持・増進を支援するために必要な知識を学ぶ。急速に健康状態が変化する対象、慢性的な経過にある対象の看護を学ぶ。

【目標】 1. 急性期、回復期、慢性期の対象の特徴を理解する。
2. 急性期、回復期、慢性期の対象の課題と看護を理解する。

【授業内容】

1. 疾病と回復過程
2. 急性期、回復期、慢性期とは
3. 急性期、回復期、慢性期の対象の身体的・精神的・社会的特徴
4. 急性期、回復期、慢性期の対象の課題
5. 急性期、回復期、慢性期の対象への看護
   1)患者へのケア 2)家族へのケア 3)チームの連携
6. 急性期、回復期、慢性期の看護を実践するために必要な理論・知識
   1)生命の危機的状況 2)廃用症候群 3)障害の概念と障害受容過程
   4)セルフケア

【教授方法】 一斉講義

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座 専門 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座 専門 臨床看護総論 基礎看護学 4 医学書院
経過別看護 メヂカルフレンド社
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院

【評価方法】

筆記試験

【備考】

急性期の看護に「救急看護」を含む
事前課題あり

科目名	担当者	実務経験
臨床看護総論Ⅱ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・ 後期	30時間/1単位/15 回	講義・演習

【概要】

終末期にある対象を全人的な存在と捉え、看護を提供するための知識を学ぶ。また、演習を通し「死」や「生」について考え、「死生観」を養う機会とする。

【目標】

講義　1．生命の尊厳・人間の死について考える。
　　2．全人的苦痛（トータルペイン）の概念について理解する。
　　3．終末期における倫理的課題について考える。
　　4．終末期患者の身体的・社会的・精神的な特徴について理解する。
　　5．終末期患者の心理過程を理解する。
　　6．終末期患者のスピリチュアルについて理解する。
　　7．終末期患者の発達段階によるニーズを理解する。

演習　1．自己の死生観を述べる。

【授業内容】

講義　・生命の尊厳・人の死　（死生観について）
　　・全人的苦痛の概念（トータルペイン）
　　・終末期患者の身体的・精神的・社会的特徴
　　・終末期患者の心理過程
　　・終末期患者のスピリチュアル
　　・終末期患者の発達段階による違い

演習　・DVD 視聴やグループワークを通し、自己の死生観（生と死）について考える。

【教授方法】　講義　DVD 視聴　演習

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座　専門　成人看護学〔1〕 成人看護学総論　医学書院
系統看護学講座　専門　臨床看護総論　基礎看護学 4　医学書院
経過別看護　メヂカルフレンド社

【評価方法】筆記試験　レポート

【備考】

科目名	担当者	実務経験
地域・在宅看護概論	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次 ・ 後期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

地域で暮らす多様な人々とその家族の生活と暮らしについて理解する。多様な状況でフォーマル及びインフォーマルな社会資源を活用しながら暮らしている様子と、本人の望む生活を継続するために多職種がどのように連携・協働しているのか理解し、地域で生活する人を支える看護の特徴と役割について学ぶ。

【目標】

1. 在宅看護の対象について理解できる。
2. 在宅看護の目的について理解できる
3. 在宅看護の特徴について理解できる。
4. 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解できる。

【授業内容】

1. 在宅看護とは
2. 在宅ケアと在宅看護
3. 地域で生活する様々な人々
4. 在宅療養における看護の役割
5. 在宅看護と家族
6. 在宅ケアを支える制度と社会資源
7. 在宅看護の特徴

【教授方法】

講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
医療福祉総合ガイドブック　医学書院
国民の福祉の動向　厚生統計協会
高齢社会白書　内閣府　・・・使用時指示

【評価方法】

出席　・　筆記試験　課題

【備考】

科目名	担当者	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅰ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1 年次 ・ 前期	15 時間/1単位/回	講義・演習

【概要】

今後高齢者人口が増えるにあたり、認知症高齢者も増えると見込まれている。認知症サポーター養成講座と赤十字健康生活支援講習会を受講することで、地域の活動に目を向けるきっかけをつくり、今後の専門的知識を学ぶ基礎にしていく。

【目標】

1. 地域の高齢者の状況がわかる。
2. 認知症について理解する。
3. 認知症についての地域の現状がわかる。
4. 高齢者支援について関心がもてる。

【授業内容】

健康生活支援講習

健康増進と高齢者に起こりやすい事故の予防・手当、地域での高齢者支援に役立つ知識・技術、日常生活の自立に向けた具体的な介護の知識と技術について学ぶ。

認知症サポーター養成講座

認知症について地域の現状と認知症について理解する。

認知症の人と接するときの心構えや認知症サポーターについて理解する。

【教授方法】

赤十字健康生活支援講習

認知症サポーター養成講座

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】 出席 課題

【備考】

科目名	担当者	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅱ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次 ・ 前期	15 時間/1単位/8 回	講義・演習

【概要】

訪問看護ステーションの機能と役割、訪問看護を受けるまでの流れを制度も含め理解する。既習の知識を統合しながら、地域で暮らす療養者が望む生活を継続するための看護について学ぶ。

【目標】

1. 訪問看護の利用の流れについて理解できる。
2. 訪問看護の看護過程について理解できる。
3. 退院調整・継続看護について理解できる。

【授業内容】

1. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション
2. 訪問看護利用の流れ
3. 訪問看護の実際と記録
4. 訪問看護での看護過程
5. 退院調整・継続看護

【教授方法】

講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
高齢社会白書　内閣府　・・・使用時指示
国民の福祉の動向　厚生統計協会　・・・使用時指示

【評価方法】　出席　筆記試験　課題

【備考】

科目名	担当者	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅲ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次 ・ 後期	30 時間/1単位/15 回	講義・演習

【概要】

在宅療養者とその家族の日常生活を支え、療養を継続するために必要な看護技術について学ぶ。また、医療依存度の高い在宅療養者に必要な援助について学ぶ。

【目標】

1. 在宅療養の場で必要な、基本的な看護技術について理解できる。
2. 医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助について理解できる。

【授業内容】

1. 訪問時のマナーとコミュニケーション
2. 訪問看護と感染症
3. 在宅看護と環境
4. 在宅における日常生活行動の援助
5. 食事と服薬管理
6. 医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助
   - ・フィジカルアセスメント　・胃瘻・経管栄養管理
   - ・在宅酸素療法　・在宅人工呼吸療法、気管カニューレ
   - ・吸引　・在宅中心静脈栄養　PORT
   - ・褥創のケア
7. 在宅ターミナルケア

【教授方法】

講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

家族看護学を基盤とした　地域・在宅看護論　第 6 版　日本看護協会出版会
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
写真でわかる訪問看護アドバンス　インターメディカ

【評価方法】 出席　参加度　筆記試験

【備考】

科目名 地域・在宅看護援助論Ⅳ	担当者	実務経験
	専任教師 保健師・ケアマネージャー他	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

実際に地域で活動している様々な職種や立場の人からの講義により、地域の現状及びそれぞれの活動と役割について理解する。地域包括ケアの理解につなげる。演習を通して地域で生活する人の暮らしをイメージする。

【目標】

地域包括ケアシステムと地域で活動している様々な職種の役割と活動を理解する。
地域で生活する人の暮らしをイメージする。

【授業内容】

1. 地域での暮らしと生活
2. 在宅福祉サービスについて
3. 地域で生活する上で使える制度やサービスについて
4. 居宅介護支援専門員の役割と活動
5. 長岡地域の保健の動向と保健師の活動
6. 地域包括支援センターの役割と活動
7. 難病支援の現状及び難病相談支援センターの役割と活動
8. 精神科訪問看護の実際

【教授方法】

講義　グループワーク　演習

【使用テキストと参考文献】

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
写真でわかる訪問看護　インターメディカ

【評価方法】

出席　グループワーク参加度、グループワーク資料、レポート、課題

【備考】

科目名 地域・在宅看護援助論Ⅴ		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3 年次	30 時間/1単位/回	講義・演習	

【概要】

実際の訪問看護を想定した演習を通して、訪問看護のイメージを具体的にするとともに、訪問時のマナーや居宅で看護する上での工夫や配慮することについて学ぶ。
事例を通して、療養者本人と家族の思いや経済的負担、社会資源と多職種の連携について理解を深める。

【目標】

1. 訪問看護について具体的にイメージできる。
2. 訪問時のマナーについて理解できる。
3. 居宅で看護する上で配慮することがわかる。
4. 療養者と家族それぞれの立場から考えることができる。
5. 療養者の経済的負担について理解できる。
6. 社会資源の活用と多職種連携について理解できる。

【授業内容】

実際の訪問看護を想定した演習
事例を通して、療養者と家族の暮らしについて考え、社会資源の活用と多職種連携及び看護の役割について学ぶ。

【教授方法】

演習

【使用テキストと参考文献】

ナーシンググラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
写真でわかる訪問看護アドバンス　インターメディカ
家族看護学を基盤とした　地域・在宅看護論　第5版　日本看護協会出版会

【評価方法】 出席　課題

科目名	担当者	実務経験
成人看護学概論	専任教師	○

年次･開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次･ 前期	30 時間/1単位/15 回	講義･演習

【概要】

ライフサイクルにおける成人の特徴を理解し､健康上の課題を加齢による変化とライフスタイルの視点から学ぶ。また対象理解に有用な概念、看護理論、健康行動理論の基礎を学び、成人看護学の理解を深めるとともに、各看護学で活用できることを目指す。

【目標】

1．人間のライフサイクルの中の成人期を理解する。
2．成人の身体的・精神的・社会的特徴と健康上の課題を理解する。
3．成人の生活を家族・仕事等の視点から総合的に理解する。
4．成人への看護を行うために必要な知識・理論を理解する。

【授業内容】

1．人間のライフサイクルの中の成人期
2．青年期の特徴と健康上の課題
3．壮年・中年期の特徴と健康上の課題
4．働いて生活を営むこと
5．家族からとらえる大人
6．人生をたどること
7．成人の健康状況と看護実践の視点
8．成人への看護アプローチの基本
　1）ストレスと危機
　2）病みの軌跡
　3）セルフケア
　4）行動と動機
　5）成人の学習と指導技術
　6）自己効力感

【教授方法】　講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座　専門　成人看護学〔１〕　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　専門　臨床看護総論　医学書院 佐藤栄子　中範囲理論入門　日総研
【評価方法】 筆記試験　参加度
【備考】

科目名		担当者	実務経験
成人保健		専任教師	○
年次･開講時期	時間数/単位数/授業回数		授業の種類
1年次･ 後期	30 時間1/単位/ 15 回		講義･演習

【概要】

成人期にある対象が主体的に健康を保つ重要性と、成人の健康生活を支援する看護のあり方を理解する。

【目標】

1. 成人の生活と取り巻く環境を理解する。
2. 各統計から、成人期の健康状況を理解する。
3. 成人の健康を保つための保健医療福祉システムを理解する。
4. 生活習慣が成人期の健康に及ぼす影響と発症を予防する必要性を理解する。
5. 成人の主体的な健康を促進するヘルスプロモーションを理解する。
6. 職業・ストレスが成人の健康に及ぼす影響を理解する。
7. 成人期にある対象が主体的に健康を保つための重要性について考える。

【授業内容】

1. 成人を取り巻く環境と生活
2. 成人保健の動向
3. 成人期を取り巻く保健医療福祉システム
4. 生活習慣が健康に及ぼす影響と発症予防
5. 成人の主体的な健康を促進するヘルスプロモーション
6. 職業・ストレスが成人期の健康に及ぼす影響
7. 成人期の対象が主体的に健康を保つための支援

【教授方法】

講義・グループワーク・学習発表会

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座　専門　成人看護学〔1〕成人看護学総論　医学書院

国民衛生の動向　厚生労働統計協会

【評価方法】

筆記試験　レポート　参加度

【備考】

電子辞書　成人看護学概論・成人保健の講義資料を持参するとよい。

科目名	担当者	実務経験
成人看護援助論Ⅰ	専任教師 長岡赤十字病院　医師 ・ 認定看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・前期	60 時間/2 単位/ 30 回	講義・演習

【概要】

高度な医療、治療処置が日常生活に与える影響及び対象の看護を理解する。手術療法・化学療法・放射線療法など悪性新生物の重要な治療法と看護について学ぶ。また、緩和ケアでは、対象の全人的な苦痛とその家族の苦悩を理解し、緩和ケアの基本について学ぶ。

Ⅰ－1【手術療法と看護】

手術治療を受ける対象の看護に必要な手術療法の知識と看護について学ぶ。

Ⅰ－2【医療機器と看護、人工臓器と看護】

高度医療で使用される医療機器や人工臓器を持つ対象について理解し、それぞれの看護について学ぶ。

Ⅰ－3【放射線療法と看護】

放射線治療を受ける対象の看護に必要な放射線療法の知識と看護について学ぶ。

Ⅰ－4【化学療法と看護】

化学療法を受ける患者に必要な知識と看護の実践について学ぶ。また、がん患者の療養生活の質の維持向上を目指すための看護について学ぶ。

Ⅰ－5【緩和ケア】

対象が平和な死が迎えられるよう支援するために必要な知識を学ぶ。

主にがん患者の全人的な苦痛とその家族の苦悩を理解し、緩和ケアの基本について学ぶ。

【目標】

Ⅰ－1【手術療法と看護】

1. 手術療法が日常生活に与える影響及び対象への看護を理解する。

Ⅰ－2【医療機器と看護、人工臓器と看護】

1. 高度医療で使用される医療機器の種類、原理取り扱い上の留意事項の理解と医療用機器を使用する患者の持つ問題について理解する。
2. 人工臓器をもつ対象を統合的に理解し看護が展開できる基礎的能力を養う。

Ⅰ－3【放射線療法と看護】

1. 放射線の作用について理解し、放射線治療と放射線有害事象について理解する。
2. 放射線療法が日常生活に与える影響及び対象への看護を理解する。

Ⅰ－4【化学療法と看護】

1. がん治療における化学療法の目的・適応を理解する。

2. 化学療法が日常生活に与える影響及び対象への看護を理解する。

Ⅰ－5【緩和ケア】

1．緩和ケアの定義、概念及び緩和ケアの現状について理解する。

2．緩和ケアにおける倫理的問題について理解する。

3．緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケアにおける看護師の役割を理解する。

4．全人的苦痛（トータルペイン）に対する看護を理解する。

5．がん性疼痛の基本的な考え方と看護を理解する。

6．危篤時、看取り時に応じた患者・家族に対する看護師の役割を理解する。

【授業内容】

Ⅰ－1【手術療法と看護】

1. 手術療法とは
2. 麻酔と麻酔時の看護
3. 手術の侵襲に対する生体の反応
4. 周手術期看護とは
5. 手術前･中･後の看護（対象の理解を含む）
6. 術後合併症の予防
7. 早期回復への援助

Ⅰ－2【医療機器と看護、人工臓器と看護】

1. ME 機器とは
2. ME 機器取り扱い上の留意点
3. 代表的 ME 機器の原理･機能
4. ME 機器を使用する対象の理解と看護
5. 人工臓器とは
6. 人工臓器をもつ対象の理解と看護

Ⅰ－3【放射線療法と看護】

1. 放射線の医学への応用
2. 放射線治療とは
3. 放射線防護
4. 放射線療法を受ける対象の理解と看護

Ⅰ－4【化学療法と看護】

1. がん化学療法とは
2. がん化学療法の薬物有害反応
3. がん化学療法を受ける対象の理解と看護

Ⅰ－5【緩和ケア】

1．緩和ケアの定義、概念

2．緩和ケアにおける倫理的問題

３．緩和ケア病棟、緩和ケアチーム の目的、活動
４．緩和ケアにおける看護師の役割
５．全人的苦痛に対する看護
６．がん性疼痛の基本的な考え方と看護
７．危篤時、看取り時に応じた患者・家族に対する看護師の役割

【教授方法】

一斉講義　　グループワーク　　演習

【使用テキストと参考文献】

Ⅰ－1【手術療法と看護】

系統看護学講座　基礎看護学〔4〕 臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院
周手術期看護1　外来／病棟における術前看護　医歯薬出版株式会社
周手術期看護２　術中／術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版株式会社

Ⅰ－2【医療機器と看護、人工臓器と看護】

系統看護学講座　基礎看護学〔4〕 臨床看護総論　医学書院

Ⅰ－3【放射線療法と看護　】

系統看護学講座　基礎看護学〔4〕 臨床看護総論　医学書院

Ⅰ－4【化学療法と看護】

国立がん研究センターに学ぶ　がん薬物療法看護スキルアップ　　南江堂

Ⅰ－5【緩和ケア】

系統看護学講座　基礎看護学〔4〕 臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学〔1〕成人看護学総論　医学書院
経過別看護　メヂカルフレンド

【評価方法】

筆記試験　レポート

【備考】

認定看護師（手術看護、救急看護、がん化学療法、がん性疼痛、緩和ケア）の講義を含む

科目名	担当者	実務経験
成人看護援助論Ⅱ	専任教師　・理学療法士 作業療法士・認定看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・前期・後期	60 時間/2単位/30 回	講義・演習

【概要】

身体のさまざまな機能障害とそれらが患者に及ぼす影響を理解し、既習の基本的な看護の考え方や基礎的知識・技術を統合しながら、機能障害に応じた看護について学ぶ。

Ⅱ－1【運動障害と看護】

主に整形外科領域の患者を取り上げ、運動障害のある患者の看護について学ぶ。また、障害を極力減らすと同時に、隠れた能力を引き出し発展させるための機能訓練・呼吸ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの実際を学ぶ。

Ⅱ－2【意識障害と看護】

意識障害によっておこる生命の危機や、自ら苦痛や要求・意思を伝えることが困難である患者の看護について、また人としての尊厳を守り看護することを学ぶ。

Ⅱ－3【呼吸障害と看護】

呼吸障害によっておこる生命の危機、心身の苦痛・不安、日常生活行動への影響と看護について学ぶ。また、自己管理に向けて患者・家族への教育について学ぶ。

Ⅱ－4【循環障害・出血と看護】

主に心不全患者を取り上げ、循環障害による生命の危機、心身の苦痛・不安、日常生活行動への影響と看護、自己管理に向けて患者・家族への教育について学ぶ。また、出血傾向・出血時・ｼｮｯｸを取り上げ、患者の理解と基本的看護について学ぶ。

Ⅱ－5【消化・排泄障害と看護】

消化吸収・排泄障害と、それらに起因する主な症状を理解し、苦痛症状を緩和するための看護について学ぶ。

Ⅱ－6【代謝障害と看護】

主に糖尿病・脂質代謝異常の患者を取り上げ、代謝障害のある患者の看護について学ぶ。糖尿病のある患者の看護では、食事療法・運動療法・ｲﾝｼｭﾘﾝ療法など患者・家族への教育的アプローチについて学ぶ。

【目標】

Ⅱ－1【運動障害と看護】

1. 運動機能と、障害発生の要因について理解する。
2. 運動障害のある患者の看護について理解する。
3. 機能訓練や呼吸ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて理解する。

Ⅱ－2【意識障害と看護】
1．　意識障害の発生要因について理解する。
2．　意識障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
3．　意識障害のある患者の看護について理解する。
Ⅱ－3【呼吸障害と看護】
1．　呼吸機能と、障害発生の要因について理解する。
2．　呼吸障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
3．　呼吸障害に関連する主な症状について理解する。
4．　呼吸障害のある患者に行われる検査・治療処置について理解する。
5．　呼吸障害のある患者の看護について理解する。
Ⅱ－4【循環障害・出血と看護】
1．　循環機能と、障害発生の要因について理解する。
2．　循環障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
3．　循環障害に関連する主な症状について理解する。
4．　循環障害のある患者に行われる検査・治療処置について理解する。
5．　循環障害のある患者の看護について理解する。
Ⅱ－5【消化・排泄障害と看護】
1. 消化・排泄機能と、障害発生の要因について理解できる。
2. 消化・排泄障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
1．　消化・排泄障害に関連する主な症状について理解する。
2．　消化・排泄障害のある患者の看護について理解する。
Ⅱ－6【代謝障害と看護】
1. 代謝障害のある患者の看護について理解する。
2. 糖尿病の患者・家族への教育的アプローチについて理解する。

【授業内容】
Ⅱ－1【運動障害と看護】
1．　運動障害・移動機能障害・作業機能障害
2．　骨折時の患者の理解と看護
3．　リハビリテーションの定義・脳血管疾患患者へのアプローチ　杖・歩行器による歩行
4．　COPD 患者の呼吸リハビリテーション
Ⅱ－2【意識障害と看護】
1．　意識障害の定義・原因とメカニズム・分類・評価　遷延性意識障害と脳死
2．　意識障害のある患者の理解・検査・治療
3．　意識障害のある患者のニーズと看護

Ⅱ－3【呼吸障害と看護】
1．　呼吸障害の定義・原因とメカニズム
2．　呼吸障害のある患者の理解・検査・治療
3．　呼吸障害のある患者のニーズと看護
Ⅱ－4【循環障害・出血と看護】
1．　循環障害の定義・原因とメカニズム
2．　循環障害（心不全）のある患者の理解・検査・治療
3．　循環障害のある患者のニーズと看護
4．　出血傾向の定義・原因・メカニズム・検査・治療・看護
5．　出血の定義・原因・治療・看護
6．　ショックの定義・重症度と症状・検査・治療・基本的看護
Ⅱ－5【消化・排泄障害と看護】
1．　消化吸収過程とその障害
2．　消化吸収障害のある患者の理解・状態観察
3．　消化吸収障害のある患者のニーズと看護
4．　排泄障害のある患者の理解・状態観察
5．　排泄障害のある患者のニーズと看護
Ⅱ－6【代謝障害と看護】
1．　代謝障害（糖尿病・脂質代謝異常）のある患者の理解
2．　代謝障害のある患者の看護

【教授方法】
一斉講義　グループワーク　発表

【使用テキストと参考文献】
Ⅱ－1【運動障害と看護】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学(10)　運動器　医学書院
系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院
写真でわかる整形外科看護　アドバンス　インターメディカ
写真でわかるリハビリテーション看護　アドバンス　インターメディカ
Ⅱ－2【意識障害と看護】
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4)　臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学（7）　脳・神経　医学書院
New 看護過程に沿った対症看護　学研
Ⅱ－3【呼吸障害と看護】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学(2)　呼吸器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4)　臨床看護総論　医学書院

New 看護過程に沿った対症看護　学研

Ⅱ－4【循環障害・出血と看護】

系統看護学講座　専門分野　成人看護学(3)　循環器　　医学書院

系統看護学講座　専門分野　成人看護学(4)　血液・造血器　　医学書院

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4)　臨床看護総論　　医学書院

New 看護過程に沿った対症看護　学研

Ⅱ－5【消化・排泄障害と看護】

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学(4)　臨床看護総論　　医学書院

New 看護過程に沿った対症看護　学研

Ⅱ－6【代謝障害と看護】

系統看護学講座　専門分野　成人看護学(6)　内分泌・代謝　　医学書院

【評価方法】

筆記試験　　グループワーク参加度

【備考】

講師名は科目別講師一覧表を参照

科目名	担当者	実務経験
老年看護学概論	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1 年次・後期	30時間/1単位/15 回	講義・演習

【概要】

老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を講義・演習で学び、生活している老年者の特徴を総合的に理解する。

【目標】

1. 老年看護の意義を理解する。
2. 老年期にある人の身体的・精神的・社会的側面を知り、老年者のライフステージを理解する。
3. 老年看護の機能と役割について理解する。

【授業内容】

1. 老化・加齢とは （1）生活史と老い （2）老いの価値
2. 加齢に伴う変化による、老年者の身体的・精神的・社会的特徴
3. 老年期とは （1）老年期の位置づけ（2） 人口学的指標・健康指標からの老年期
   （3）生活の視点からの老年期の理解
4. 多様な老年者 （健康レベル 価値観 生活習慣・生活様式など）
5. 高齢社会と看護の役割（1）高齢者の生活（2）老年者体験（3）老年看護の機能と役割
6. 老年看護学の基本的な考え方、目標・原則

【教授方法】

講義・疑似体験・グループワーク

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

【評価方法】

出席・参加度・レポート・終講時筆記試験

【備考】

科目名	担当者	実務経験
老年保健	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1 年次・ 後期	15時間/1単位/8 回	講義・演習

【概要】

老年者に関する統計資料をもとに、老年者の健康状況について理解し、わが国の高齢者医療と福祉の概要や高齢者施策の動向を理解する。

要介護状態となっても、最後まで自分の望む生活を送るための介護保険制度や地域の資源、健康寿命を延伸させるための介護予防の方法について学ぶ。

【目標】

1. 高齢社会における老年者の現状について理解できる。
2. 老年者の健康について理解できる。
3. 老年者に対する施策の動向を理解できる。
4. 老年者に対する保健医療・福祉制度の概要が理解できる。
5. 介護予防の必要性と予防の方法について理解できる。

【授業内容】

1. 高齢化する社会状況
2. 高齢者医療と福祉の動向
3. 高齢者にとっての健康
4. 老年者の健康の特徴
5. 平均寿命と健康寿命
6. 介護保険と介護予防

【教授方法】

講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】　国民福祉の動向　厚生労働統計協会

高齢社会白書　内閣府　　医療福祉　総合ガイドブック　医学書院

系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院

【評価方法】

出席　・　筆記試験　・　課題

【備考】

科目名 老年看護援助論	担当者	実務経験
	専任教師 長岡赤十字病院医師・看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・前期	45 時間/2単位/23 回	講義・演習

【概要】

【老年看護援助論1】 老化とそれに起因する疾病の理解　　6 時間

老化を科学的に学び、老年者特有の疾患とその治療を理解する。

【老年看護援助論2】 老年期にある対象への看護　39 時間

老年者の健康上の諸問題、老年者特有の症状等、老年看護に必要な知識・技術等について理解する。

【目標】

【老年看護援助論1】老化とそれに起因する疾病の理解　　6 時間

老化を科学的に学び、老年者特有の疾患とその治療を理解する。

【老年看護援助論2】 老年期にある対象への看護　39 時間

老年者の健康上の諸問題、老年者特有の症状、老年者への日常生活行動への援助等、老年看護に必要な知識、技術について理解する。

【授業内容】

【老年看護援助論1】6時間

老年医学

【老年看護援助論2】39 時間

1. 老年者に多い疾患
2. 老化と脱水
3. 老年者の日常生活の援助
4. 老年患者の経過別看護
5. 認知症の老年者の看護
6. フレイルとサルコペニア

【教授方法】

講義・グループワーク・DVD 視聴・技術演習

【使用テキストと参考文献】 【老年看護援助論1】 開講前に提示 【老年看護援助論2】 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　医学書院
【評価方法】 【老年看護援助論1】 出席・筆記試験 【老年看護援助論2】 出席・参加度・レポート・筆記試験
【備考】

科目名	担当者	実務経験
小児看護学概論	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2 年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

ライフサイクルにおける小児期の特徴を理解し、小児看護に求められる機能と役割を学ぶ。

【目標】

1. ライフサイクルにおける小児期の特徴を理解する。
2. 小児の成長・発達を理解する。
3. 小児が生活している社会や環境との関係を理解する。
4. 小児看護の機能と役割について理解する。

【授業内容】

Ⅰ. 子どもとは

1. ライフサイクルにおける子ども
2. 子どもの特性
3. 子どもの成長・発達
4. 子どもと遊び

Ⅱ. 子どもと家族を取り巻く環境

1. 子どもにとっての家族
   1) 家族関係とその現状
2. 子どもを取り巻く社会
   1) 子どもの置かれている社会状況
   2) 子どもを取り巻く環境

Ⅲ. 小児看護の目指すところ

1. 子どもの権利と倫理
2. 小児看護の対象と特徴
3. 小児看護の目標
4. 小児医療・小児看護の変遷
5. 小児看護の今後の課題

【教授方法】

一斉講義

グループワーク

【使用テキストと参考文献】。 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論 　医学書院
【評価方法】 筆記試験　レポート　参加度
【備考】

科目名	担当者	実務経験
小児保健	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・前期	15時間/1単位/7 回	講義・演習

【概要】

小児保健の動向をや政策を学ぶとともに、小児の健康増進と疾病予防のための看護について学ぶ。

【目標】

１．小児保健の動向を知り、小児保健の意義について理解する。
２．母子保健の法律と政策について理解する。
３．健康な子どもの日常生活と看護について理解する。

【授業内容】

1．小児保健の動向

１）小児保健の目的と動向
２）小児の保健統計
３）小児看護の場

２．健康を保持・増進するための活動

１）母子保健の目的と動向
２）母子保健
３）予防接種
４）学校保健
５）事故防止と安全教育
６）虐待

３．小児の健康生活と看護

１）乳児期の健康な生活と養護
２）幼児期の健康な生活と基本的生活習慣
３）学童期の健康な生活と健康教育
４）青年前期（思春期）の健康な生活と生活指導

【教授方法】

一斉講義
グループワーク

【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔1〕 小児看護学概論　小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向　厚生労働統計協会
【評価方法】 筆記試験　レポート　参加度
【備考】

科目名 小児看護援助論	担当者	実務経験
	専任教師 長岡赤十字病院　医師 認定看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・後期	45時間/2単位/23 回	講義・演習

【概要】

小児の疾患・治療について学ぶ。また、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族を中心とした小児看護の知識・技術について学ぶ

【目標】

1. 小児疾患と病態、症状、治療、検査について理解する。
2. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。
3. 子どもと家族の状況や経過に特徴づけられる看護を理解する。
4. 子どものアセスメントと子どもにみられる症状と看護について理解する。
5. 基本となる小児看護技術について学び、小児看護のあり方を考える。

【授業内容】

＜小児看護援助論1＞小児疾患の理解

小児疾患の症状・治療・検査

＜小児看護援助論2＞健康障害と看護

Ⅰ. 病気・障害を持つこどもと家族の看護
　1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響
　2. 子どもの健康問題と看護
Ⅱ. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護
　1. 子どもの入院・外来環境
　2. 入院中や外来の子どもと家族への影響と看護
Ⅲ. 子どもにおける疾病の経過と看護
　1. 急性期、周手術期
　2. 慢性期、在宅
Ⅳ. 子どものアセスメント
Ⅴ. 子どもにみられる症状と看護
　1. 不機嫌・啼泣、発熱、発疹
　2. 悪心・嘔吐、下痢、脱水

3. 痛み、意識障害、けいれん Ⅵ. 子どもと家族に起こりやすい、直面しやすい状況と看護 1. 障害のある子どもと家族の看護 2. 治療処置、検査を受ける子どもと家族 3. 子どもの虐待と看護 Ⅴ. 子どもの意思決定のための看護 1. 子どもの権利と倫理 2. 子どもと遊び、プレパレーション 3. 事例を通して小児看護のあり方について考える **＜小児看護援助論3＞**低出生体重児の看護
【教授方法】 一斉講義、一部演習
【使用テキストと参考文献】 写真でわかる小児看護技術　インターメディカ 系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論　医学書院
【評価方法】 筆記試験　レポート　参加度
【備考】

科目名	担当者	実務経験
母性看護学概論	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2 年次・ 前期	15 時間/1単位/7回	講義・演習

【概要】

母性看護学の導入として、看護を実践するうえで必要な対象の特徴と母性の基盤となる概念を理解し、母性看護の課題と役割を学ぶ。

【目標】

1. 母性看護の対象や看護の特徴から母性の概念を理解する。
2. 母性看護に必要な基本となる概念を理解する
3. 生殖器の形態・機能、女性における月経周期・妊娠について理解する。
4. 性分化のしくみとおもな性分化疾患について理解する。

【授業内容】

1. 母性看護の基本となる概念
   1） 母性とは
   2） 母子関係と家族発達
   3） セクシュアリティ
   4） 性意識
   5） リプロダクティブヘルス/ライツ
2. 母性看護の対象理解
   1）女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化
      ①生殖器の形態と機能
      ②月経周期
   2）妊娠と胎児の性分化

【教授方法】 一斉講義 DVD 視聴

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論（母性看護学1） 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（人体の構造と機能1） 医学書院
系統看護学講座 専門分野 女性生殖器（成人看護学9） 医学書院
解剖生理をおもしろく学ぶ 増田敦子 サイオ出版

【評価方法】 筆記試験

【備考】

科目名		担当者	実務経験
母性保健		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数		授業の種類
2年次・ 前期	30 時間/1単位/15 回		講義・演習

【概要】

女性を取り巻く社会の変遷と現状を理解するとともに、ライフサイクルにおける各期の対象の特徴と健康課題を明確にし、ヘルスプロモーションの視点から看護の役割を学ぶ。

【目標】

1. 統計的指標の変遷から母性看護に関する組織や法律、母子保健施策の観点から母性看護の現状を理解する。
2. 思春期・成熟期・更年期・老年期それぞれの身体的特徴、心理・社会的特徴と健康上の課題と看護を理解する。
3. ヘルスプロ―モーションのための看護技術について、事例を通し理解する。

授業内容）

1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状
   1）母子保健統計からみた動向
   2）母性看護に関する法律と母子保健施策
2. 女性のライフステージ各期における看護
   1）思春期女性の健康と看護
      ①月経異常、月経困難症
      ②人工妊娠中絶
      ③性感染症
   2）成熟期女性の健康と看護
      ①子宮筋腫・子宮内膜症と月経困難症
      ②乳がん・子宮頸がん
      ③家族計画
   3）更年期・老年期女性の健康と看護
      ①閉経と更年期症状、更年期障害
      ②腟炎、骨粗しょう症
      ③尿失禁、子宮脱・子宮下垂
3. リプロダクティブヘルスケア
      ①DV、性暴力
      ②児童虐待、特定妊婦
      ③喫煙

4．グループワーク 1)健康教育・保健指導の方法
【教授方法】 一斉講義　DVD 視聴　グループワーク　発表
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論（母性看護学1）　医学書院 国民衛生の動向　厚生労働統計協会 国民福祉の動向　厚生労働統計協会
【評価方法】 筆記試験
【備考】

科目名 母性看護援助論	担当者	実務経験
	専任教師 長岡赤十字病院　医師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・　前期・後期	60 時間/2単位/30 回	講義・演習

【概要】

女性のライフサイクルにおける性と生殖機能の顕著な妊娠・分娩は女性や家族にとって新たな役割に適応していく時期であることをふまえ、妊娠・分娩期および産褥期ある女性と新生児(胎児)、その家族に対する看護について学習する。周産期と新生児期における正常と異常、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の身体・心理・社会的特徴をウエルネスの視点におけるアセスメントと支援方法を学ぶ。

【目標】

1. 周産期における対象の身体的・心理的・社会的特性について理解する。
2. 正常な妊娠・分娩・産褥経過を理解する。
3. 妊娠期にある妊婦と家族に必要な看護を理解する。
4. 分娩期にある産婦と家族に必要な看護を理解する。
5. 産褥期にある褥婦と子、その家族に必要な看護を理解する。
6. 新生児の身体的特徴を理解する。
6. 新生児の子宮外生活適応過程について必要な看護を理解する。
7. 子どもを産むことの意思決定に伴う遺伝相談や出生前検査、不妊の問題と課題について理解する。
8. 妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期の異常とその看護について理解する。
9. 周産期にある対象に必要な看護技術を修得する。

【授業内容】

1. 妊娠期
   1) 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性
   2) 妊婦、胎児と家族のアセスメントと看護
2. 分娩期
   1) 分娩の要素と経過
   2) 産婦、胎児と家族のアセスメントと看護
   3) 分娩期の看護
3. 新生児期
   1) 新生児の生理
   2) 新生児のアセスメントと看護

4. 産褥期
1）産褥経過
2）褥婦と家族のアセスメント看護
3）育児支援体制と職場復帰
5. 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常とその看護
1）妊娠の異常と看護
2）分娩の異常と看護
3）新生児の異常と看護
4）産褥の異常と看護
6. 遺伝相談と不妊
1）出生前診断
2）不妊治療と看護
7. 周産期にある対象への看護技術
1）親になる過程,家族適応を促す方法
2）次世代の成長・発達を促す方法（演習）
3）周産期にある対象への看護過程（演習）

【教授方法】

一斉講義　DVD 視聴　演習

【使用テキストと参考文献】

母性看護援助論Ⅰ
系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　母性看護学〔2〕　医学書院
母性看護援助論Ⅱ
系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　母性看護学〔2〕　医学書院
写真でわかる母性看護技術　アドバンス　インターメディカ

【評価方法】

筆記試験　課題

【備考】

科目名	担当者	実務経験
精神看護学概論	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次・後期	15時間/1単位/7 回	講義・演習

【概要】

人間の精神(心)の構造と機能の理解を基盤とし、精神的健康を脅かされた人や精神に障害をもつ人を理解する。また、精神保健福祉に関する法律・制度の歴史的変遷をふまえて、精神障害をもつ人の社会参加と権利擁護、リカバリーについて理解し、精神看護実践の基礎となる考え方を学ぶ。

【目標】

1. 日本の精神医療の現状から、精神看護の目的・対象・役割を理解する。
2. 人間の精神の構造と機能を理解する。
3. 精神の健康について考え、健康障害をひきおこす要因を理解する。
4. 精神の健康を保つための精神保健福祉施策と精神看護の役割を理解する。

【授業内容】

1. 現代社会と精神看護
   1) 日本の精神医療の現状と課題
   2) 精神看護の対象と看護の目的
2. 人間の精神の構造と機能
   1) 精神の構造・機能
   2) 自我の防衛機制
   3) 自我の発達
3. 精神の健康
   1) 精神の健康と精神障害のとらえ方
   2) ストレスとコーピング
   3) 危機のプロセスと危機介入
4. 精神の健康と看護
   1) 精神の健康を保つための精神保健福祉施策
   2) 精神看護の機能と役割
   3) 災害時の精神看護

【教授方法】

一斉講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

国民衛生の動向　厚生労働統計協会

新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論・精神保健　メヂカルフレンド社 新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社
【評価方法】 筆記試験　レポート
【備考】

科目名	担当者	実務経験
精神保健	長岡赤十字病院臨床心理士	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

ライフサイクルにおける精神(心)の発達と、さまざまな生活の場や危機状態における精神保健上の課題について学び、健康な生活を維持するために必要な精神保健活動について理解する。

【目標】

1．精神（心）のとらえ方を理解する。
2．精神の健康の概念とそれを支える要因について理解する。
3．ライフサイクルにおける精神(心)の発達を理解する。
4．現代社会とさまざまな生活の場における精神保健上の問題(課題)とその対策を理解する。

【授業内容】

1．精神(心)のとらえ方
　1）脳の構造と働き
　2）精神(心)の構造と働き
2．精神(心)の発達に関する考え方
3．精神の健康とそれを支える要因
　1）精神の健康とは
　2）ストレスとストレスマネジメント
4．生活の場における精神保健
　1）家族と精神保健
　2）学校と精神保健
　3）職場と精神保健
　4）地域社会と精神保健
5．現代社会と精神保健
　1）現代社会の特徴(社会構造の変化と社会病理)
　2）精神保健が関与する社会病理現象

【教授方法】

一斉講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論・精神保健　メヂカルフレンド社

【評価方法】 筆記試験
【備考】

科目名 精神看護援助論Ⅰ	担当者	実務経験
	長岡赤十字病院　医師 新潟県立精神医療センター 看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習

【概要】

精神の健康障害や入院が対象に及ぼす影響を理解し、精神の健康障害をもつ人々が自己実現をめざしてその人らしく生きていくための援助方法について学ぶ

Ⅰ-1【精神疾患の理解・治療】

精神障害の代表的な疾患について、その病態・診断・治療について基本的知識を学ぶ。

Ⅰ-2【精神障害と看護】

精神疾患や精神障害の症状や経過、治療をふまえ、それらが対象の生活に及ぼす影響を理解する。また、精神障害をもつ人に対しての症状や治療に対する援助や社会への適応、自立に向けた支援について学ぶ。

【目標】

Ⅰ-1【精神疾患の理解・治療】

1．主な精神疾患・障害の病態・症状・診断について理解する。

2．精神疾患における治療法(薬物療法・精神療法・心理社会療法など)について理解する。

Ⅰ-2【精神障害と看護】

1．精神障害をもつ患者と家族を理解するための方法がわかる。

2．主な精神疾患/障害をもつ人に対する看護の方法を理解する。

3．精神障害をもつ人の社会復帰支援、地域生活支援について理解する。

【授業内容】

Ⅰ-1【精神疾患の理解・治療】

1．以下の疾患・障害の病態・症状・診断

統合失調症、気分(感情)障害

神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害

パーソナリティ障害、性同一性障害

精神作用物質使用による精神・行動障害

小児期、青年期に発症する行動・情緒の障害

2．精神疾患の治療

薬物療法、精神療法、心理社会療法、電気けいれん療法

Ⅰ-２【精神障害と看護】

１．精神障害をもつ患者と家族の理解と支援のための概念

２．主な精神疾患/障害をもつ人への看護

統合失調症、気分障害(双極性障害・うつ病)、アルコール依存症、

児童・思春期の精神障害　(自閉症スペクトラム障害、神経性摂食障害など)

３．精神障害をもつ人へのセルフケアの援助

４．精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮

５．精神障害をもつ人の地域生活支援

【教授方法】

一斉講義

【使用テキストと参考文献】

Ⅰ－1

新体系看護学全書 35 巻　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社

Ⅰ－2

新体系看護学全書 35 巻　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社

【評価方法】

筆記試験　　レポート

【備考】

科目名 精神看護援助論Ⅱ	担当者	実務経験
	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・後期	15 時間/1単位/7 回	講義・演習

【概要】

「人間関係論」を基盤に、治療的な人間関係の意義、患者-看護者関係の成立・発展のための方法について理解し、対象との相互作用の過程で自己洞察する方法について学ぶ。また、事例を通して、精神に障害のある人の理解と回復を目指した支援の方法を学ぶ。

【目標】

1．治療的な人間関係を構築する意義と、患者-看護者関係の成立・発展のプロセスを理解する。
2．患者-看護者関係の成立・発展のための基本的態度を理解する。
3．プロセスレコードの分析方法を理解し、対人援助技術としてのコミュニケーションを振り返る必要性がわかる。
4．精神に障害のある人の理解と、回復を目指した支援の方法を理解する。

【授業内容】

1．患者-看護者関係の構築の意義
　1）患者-看護者関係の成立・発展のプロセス
　2）関係性の構築のための基本的態度
2．プロセスレコードの意義と分析の方法
3．精神に障害のため対象の事例展開
　　統合失調症の患者の看護

【教授方法】

一斉講義　演習　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社

【評価方法】

課題の提出　レポート

【備考】

科目名 看護研究	担当者	実務経験
	専任教師 長岡赤十字病院看護管理者	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2 年次・後期	30 時間/1 単位/ 15 回	講義・演習

【概要】

看護研究では、看護ケアの質の向上に向けて、看護研究をおこなう意義と方法について学ぶ。対象への看護において得られたデータを、文献を用いて考察することを通して、看護を探求するための能力を養う機会とする。また、対象への説明と同意、論文における匿名性の保持など、看護研究の一連の過程における、対象の権利および尊厳を守るための倫理的配慮のあり方について考える。さらに、成果に関するプレゼンテーションと意見交換、学生相互で論文を批判的に検討するピアレビューにより、自己開発に向けて継続的・自律的に学習していくために有効な一方法を学ぶ。

【目標】

1.看護ケアの質の向上に資する看護研究の方法について知る。

1)看護研究と EBN について理解する。

2)看護研究における倫理指針と研究計画書について理解する。

3)看護研究の方法について知る。

4)研究疑問と文献検索をおこなう。

5)研究論文を批判的に検討する。

【授業内容】

1.看護研究

1)看護研究と EBN

2)看護研究における倫理指針と研究計画書

3)看護研究の方法 (1)概念枠組みと変数 (2)研究デザイン

4)研究疑問と文献検索

5)クリティークとクリティークの実際

【教授方法】

講義・グループワーク

【使用テキストと参考文献】
【看護研究】
南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会．
日本看護協会看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2018.
松本孚：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方，照林社．

【評価方法】
看護研究：ケーススタディ　論文評価
60 点以上をもって単位認定とする。

【備考】
看護研究(ケーススタディ)は、臨地実習の指定された実習場所でおこない、論文を作成し、提出する。

科目名 看護管理論	担当者	実務経験
	専任教師 長岡赤十字病院　認定看護師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・後期	30時間/2単位/15回	講義・演習

【概要】

看護管理では、看護管理システム(人・物を整えることとそれらの効率的な管理、看護管理過程含む)、組織およびリーダーシップについて学ぶ。また安全管理のためのリスクマネジメント、緊急時および大規模災害発生時の看護管理のあり方についても理解を深める内容とする。

看護安全管理では、医療安全の基盤となる考え方、チーム医療の中で医療安全における看護師の果たすべき責任と、看護倫理に基づいた行動について学ぶ。

また、事故防止の考え方と、診療の補助業務・療養上の世話業務・共通する業務での危険、各業務における事故と事故要因、事故防止のためのリスク査定、それを回避するための具体的な方法について学ぶ。事例検討・医療安全教育ビデオの視聴を通して、事故要因および事故防止のための行動を考える。

感染対策の基本的な考え方や、感染対策の実際を学ぶ。

【目標】

【看護管理】

1．看護サービスにおける管理について理解する。

1)看護管理システムについて理解する。

2)組織とリーダーシップについて理解する。

3)人的資源管理、物的資源管理、情報管理について理解する。

4)安全管理とリスクマネジメントについて理解する。

5)緊急時および大規模災害発生時の看護管理のあり方を知る。

【看護安全管理】

１．看護師の果たすべき責任と、看護倫理に基づいた行動について理解する。

２．事例検討を通して、責任ある看護倫理に基づいた行動について理解する。

３．事故防止の考え方と、国・組織などの様々な取り組みについて理解する。

４．診療の補助業務・療養上の世話業務・共通する業務での危険を理解する。

５．各業務における事故とその要因、事故防止のためのリスク査定、回避するための具体的方法について理解する。

６．事例検討・医療安全教育ビデオの視聴を通し、事故要因を明らかにするとともに、事故防止に向けて自己の課題と方向性を明らかにする。

７．感染対策の基本的な考え方をふまえ、感染対策の実際を理解する。（認定看護師）

８．スキンケア、スキンテア等について学び、皮膚・排泄ケアの実際を理解する。

【授業内容】

【看護管理】

1. 看護管理システム
2. 組織とリーダーシップ
3. 看護ケア提供システムと看護単位
4. 人的資源管理(労働時間、勤務体制、技能形成とキャリア開発システム)
5. 物的資源管理(施設設備、物品供給システム)
6. 情報管理(情報の種類、守秘義務、情報開示への対応)
7. 安全管理とリスクマネジメント
8. 緊急時および大規模災害発生時の看護管理のあり方

【看護安全管理】

１．法的責任：看護の専門職としての責務・医療過誤と法的責任・看護学生に求められる責任・注意義務・看護教員の責任　事例検討

２．看護倫理：倫理の特性・法と倫理・専門職の倫理・患者の権利・看護倫理の原則　事例検討

３．医療安全管理：事故防止の考え方・業務領域をこえて共通する間違いと発生要因　診療の補助業務に伴う事故防止・療養上の世話における事故防止

４．危険予知トレーニング

５．感染対策：基本的な考え方・標準予防策の構成要素（最新情報）・院内での実際

【教授方法】

一斉講義　グループワーク

【使用テキストと参考文献】

＜看護管理＞

・系統看護学講座専門分野　基礎看護学[1]看護学概論,医学書院.

＜看護安全管理＞

・系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践②　医療安全　医学書院

・川村治子　著　医療安全ワークブック第３版　医学書院

・新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社

・日本看護協会監修　看護職の基本的責務－定義・概念/基本法/倫理－　日本看護協会出版会

・東京医科大学看護専門学校編　よくわかる看護者の倫理綱領　照林社

・田村やよひ著　私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法第２版　日本看護協会出版会

＜感染管理認定看護師＞

・新体系　看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社

＜皮膚・排泄ケア認定看護師＞ ・資料配付
【評価方法】 ＜看護管理＞　　客観試験 ＜看護安全管理＞　客観試験　　KYT 課題レポート
【備考】

科目名	担当者	実務経験
臨床判断の基礎と応用	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
3年次・後期	45 時間/1単位/ 回	講義・演習

【概要】

医療システムの中の危険要因と事故防止のための知識や技術を統合し、良質な看護を提供するための判断力と実践力を養うことを目的とする。事例を通して、危険要因および事故防止のための基礎的知識や方法を理解する。また、複数対象を受け持つ演習を通して、臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、臨床判断能力やリスク感性を高め、対象に応じた看護を安全に実践できる能力を養う。

また,臨床判断の基礎として,臨床場面の体験をリフレクションし,科学的または質的に分析して看護研究(ケーススタディ)としてまとめ,発表する機会を設ける。

【目標】

〈臨床判断演習〉

1．事例を通して危険要因を分析し、危険を回避するための方法を理解する。
2．事故防止のための基礎的知識をもとに、安全な看護を実践するための方法を理解する。
3．複数対象を受け持つ演習を通して、臨床実践に近い状況下で看護を実践するための判断力と実践力を養う。
4．リフレクションを通し、安全な看護を実践するための自己の課題と方向性を明確にする。

〈ケーススタディ〉

1.ケーススタディの目的を設定した上で,対象紹介,看護実践,考察にいたるまで,一貫性かつ論理性のある論文を作成する。
2. 看護援助の結果,もしくは対象の語りや場面から得られたデータを,研究論文,専門書などを用いて多面的に検討し考察する。
3. 看護研究の一連の過程(対象への説明と同意,看護の実践,論文作成等)を通して,倫理的配慮をおこなう。
4. 発表補助手段を用いて,ケーススタディの成果をわかりやすく発表する。
5. 論文を批判的に検討し,講評する。

【授業内容】

〈臨床判断演習〉35 時間

KYT 演習 1～3　事例を通して危険要因に気づき、危険を回避するための方法を考える。

①　療養中のケアと診療の補助に伴う危険

② 認知・行動特性による危険

③ 多重課題(業務中断・同時業務)の発生に伴う危険

臨床判断演習

1) 複数対象を通して、対象の疾病や状態を理解し、対象に必要な援助を判断する。

2) 対象の状態から優先順位を判断し、安全・安楽に援助を実施する。

3) 援助実践場面を通して、看護実践における自己の特徴を理解し、安全な看護を提供するための課題と方向性を明確にする。

〈看護研究〉10 時間

看護研究(ケーススタディ)発表会:9 月

【教授方法】

〈臨床判断演習〉

グループワーク

演習

〈ケーススタディ〉

ケーススタディ論文作成と発表

【使用テキストと参考文献】

川村治子 医療安全ワークブック 医学書院

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院

【評価方法】

出席状況 グループワークへの参加状況 レポートの提出

【備考】

科目名 災害看護学	担当者	実務経験
	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2 年次・ 後期	30 時間/1 単位/ 15 回	講義・演習

【概要】
あらゆる状況下において、人間の尊厳と権利を尊重し、苦痛を軽減することが赤十字の使命である。災害看護論では、災害医療論をふまえ、大規模災害により発生する傷病者や家族、大きな影響を受ける様々な対象に対して看護をおこなえる知識・技術を身につける。中でも、災害救護に必要な技術として、トリアージ(start式、PAT)、フィジカルアセスメントを基盤とした外傷評価技術、被災者の精神的支援をはかる心のケアのあり方を中心に学ぶ。

【目標】
1. 災害・災害看護の概念、災害が及ぼす影響を理解する。
2. 日本赤十字社が国内救護を行う法的根拠を理解する。
3. 赤十字の国内救護活動の目的、ならびに活動の実際について知る。
4. 災害医療, 看護における倫理的課題について知る。
5. 災害時における様々な場, 多様な人々のニーズと対応について考える。

【授業内容】
1.災害の歴史と災害看護の定義
2.災害が人々の健康・生活・社会(社会の脆弱性・情報伝達など含む)に及ぼす影響
3.赤十字が災害救護をおこなう法的根拠、災害時の社会制度
4.様々な場における多様な対象への災害時の看護(異文化看護含む)
（病院・避難所・車の中/要援助者:慢性疾患、高齢者、精神科治療を要する人/妊産褥婦・新生児・乳幼児・子ども/その他の弱者:外国人、視聴覚障がい者/遺体と家族）
5. 被災者のストレス反応とその経過、避難所における心のケア
6.災害救護技術
（外傷評価技術・心のケア技術・限られた資源の中での看護援助の工夫等）

【教授方法】 講義およびグループワーク、演習

【使用テキストと参考文献】
日本赤十字社事業局看護部： 災害看護学・国際看護学， 医学書院.

【評価方法】 筆記試験　参加度

【備考】

科目名	担当者	実務経験
基礎看護学実習Ⅰ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
1年次	90時間/2単位	実習

【概要】

入院している患者を統合的に理解する過程を学ぶ。

【目標】

１．受持ち患者の特徴および疾病・治療と身体的・精神的・社会的特徴について理解する。
２．アセスメントを行い、受持ち患者について理解する。
３．看護師に必要な基本的態度を身につける。
４．基礎看護学実習を振り返り、学びを明らかにするとともに看護について考える。

【授業内容】

コミュニケーションや観察を通して得られた情報をもとに、患者について総合的に理解し、必要な看護を考える過程を身につける。また、実習を通して、看護師として必要な基本的態度について学ぶ。体験を通して、看護とは何か考える。

【教授方法】

演習
実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

実習評価表（実習レポートを含む）　出席時間

【備考】

科目名	担当者	実務経験
基礎看護学実習Ⅱ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2 年次	90時間/2単位	実習

【概要】

看護過程をたどり、患者への援助を実践するために必要な、基礎的知識・技術・基本的態度を修得する。

【目標】

１．受持ち患者の特徴および疾病・治療と身体的・精神的・社会的特徴について理解する。
２．アセスメントを行い、受持ち患者について理解する。
３．看護過程をたどり、受持ち患者への援助を実践する。
４．看護師に必要な基本的態度を身につける。
５．基礎看護学実習を振り返り、学びを明らかにするとともに看護について考える。

【授業内容】

基礎看護学実習Ⅰでの学びをもとに、受け持ち患者に必要な看護を計画、実施、評価し、看護過程の展開を行う。また、実習を通して、看護師として必要な基本的態度について学ぶ。体験を通して、看護とは何か考える。

【教授方法】

演習
実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

実習評価表（実習レポートを含む）　出席時間

【備考】

科目名	担当者	実務経験
地域・在宅看護論実習Ⅰ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2 年次・前期	30 時間/1 単位 （IA.・IB：0.6 単位　IC：0.4 単位）	実習

【概要】　地域社会で暮らす人々の理解と支援について学ぶ

IA ： 地域で暮らす人々を支援する活動の実際

年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするため、同じ地域で暮らす人々がともに生き、ともに支えあうまちづくり活動の実際について学ぶ。

ＩＢ ： 地域で暮らす人々の理解

年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境となっているか地域の状況について理解する。

ＩＣ:乳幼児を対象とした保健活動の実際

地域社会の中ですべての子どもが健やかに成長発達するための働きかけについて学ぶ

【目標】

ＩＡ ： 地域で暮らす人々を支援する活動の実際 （4 時間）

1. 地域福祉活動の実際を理解する。
2. ボランティア支援の実際を理解する。
3. 権利擁護に関する支援の実際を理解する。
4. 障害者の社会参加のための支援の実際を理解する。
5. 地域で暮らす人の各種相談についての活動を理解する。

ＩＢ ： 地域で暮らす人々の理解 （16 時間）

1. 体験を通して暮らしを維持するための活動について考える。
2. 体験を通して住まいの周辺が暮らしやすい環境であるか考える。
3. 体験を通して生活圏が暮らしやすい環境であるか考える。

ＩＣ:乳幼児を対象とした保健活動の実際 （10 時間）

1. 長岡市の特徴と小児保健の動向を理解する。
2. 小児保健活動の実際を理解する。
3. 小児の健康はどのようにして守られているか考える。

【授業内容】

ＩＡ ： 地域で暮らす人々を支援する活動の実際

長岡市社会福祉センターの見学

ＩＢ ： 地域で暮らす人々の理解

1. フィールドワーク 1, 2, 3 を通して地域で暮らすことを考える。
2. グループカンファレンス

IC ： 乳幼児を対象とした保健活動の実際

1. 事前講義
2. 長岡市の小児保健事業の見学
   (赤ちゃん相談・1 歳 6 か月健診・3 歳児健診の見学実習)
3. 実習まとめ（グループワークと発表会）

【教授方法】

見学実習 ・ グループワーク ・ フィールドワーク

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

出席 ・ 実習態度 ・ 実習記録 ・ 実習レポート

【備考】

詳細は要項参照

科目名 地域・在宅看護論実習Ⅱ	担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
2年次・後期	45時間/1 単位	実習

【概要】 高齢者福祉 と 地域包括ケアの理解

実習を通して、地域で暮らす高齢者及び介護保険サービス、地域の資源について理解し、地域包括ケアについて理解を深める。

【目標】

1. 介護保険サービスについて理解する。
2. 介護保険サービスの利用者について理解する。
3. 身近な地域の資源について関心がもてる。
4. 看護師に必要な基本的態度を意識して行動する。

【授業内容】

実習を通して、要支援、要介護状態にありながら地域で暮らす高齢者について理解する。また、地域での生活を支えるための介護保険サービスとそこで働く職種の役割を理解する。フィールドワークを通して高齢者が暮らす地域と、身近な店舗で購入できる福祉用具や介護用品について理解を深める。 実習を通して地域包括ケアシステムについて理解を深める。

【教授方法】

実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

出席 ・ 実習態度 ・ 実習記録 ・ 実習レポート

【備考】

詳細は要項参照

科目名	担当者	実務経験
地域・在宅看護論実習Ⅲ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
3 年次	45 時間/1 単位	実習

【概要】 訪問看護 と 地域連携の実際

新生児から高齢者まで様々な状態・状況にある対象への訪問看護を通して、地域で療養している対象とその家族について、生活、価値観、看護も多様である様子をとらえ、個別性と生活について考える。住み慣れた地域でその人が望む生活を継続できるように、社会資源の活用と多職種の連携・協働の実際を学ぶ。施設内看護と比較しながら訪問看護の特徴を理解するとともに、地域で生活する人を支える看護の役割について考える。

【目標】

1. 在宅で療養する人と必要な看護を理解する。
2. 在宅ケアチームの一員としての看護の役割を考える。
3. 看護師に必要な基本的態度を意識して行動する。
4. 在宅看護論実習での体験を振り返り、看護についての考えを深める。

【授業内容】

訪問看護ステーションの訪問看護師に同伴訪問する。

複数宅の訪問を通して、生活、価値観、看護が多様である様子をとらえ、個別性と生活について考えを深める。

実習を通して、地域で療養する対象とそれを支える家族について理解する。また、社会資源の活用の実際と多職種の連携・協働の実際を学ぶ。

地域で生活する人を支える看護の特徴と役割について考える。

【教授方法】

実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

出席 ・ 実習態度 ・ 実習記録 ・ 実習レポート

【備考】

詳細は要項参照

科目名	担当者	実務経験
成人看護学実習Ⅰ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類
2年次・後期　3年次	90時間/2単位	実習

【概要】

人の一生からみた成人期の特徴を理解し、対象の健康上の課題を総合的にとらえ、看護を実践するための能力を養う。保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と責任を学ぶとともに、看護実践を通し、看護を探求する。

【目標】

1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
2. 成人の生活・保健の動向を理解し、成人が自ら疾病予防、健康の保持・増進ができるよう、保健指導できる能力を養う。
3. 疾病・障害を有する成人が自ら健康状態を回復・維持するよう（あるいは平和な死を迎えられるよう）その人に合わせた看護を実践する。
4. 看護を安全・安楽に実施する技術を身につける。
5. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と責任を認識し、看護する。
6. 看護実践を通して看護とは何か考える。

【授業内容】

回復期、慢性期、終末期のいずれかの健康レベルにある成人期の対象を受持つ。成人の特徴を理解し、健康レベルに合わせた看護を実践する。実践を通し、看護とは何か考える。

【教授方法】

実習

【評価方法】

実習リポート　実習評価表　実習時間

【備考】実習要項、各実習棟オリエンテーション綴りを参照すること

科目名	担当者	実務経験
成人看護学実習Ⅱ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類
3 年次	90 時間/2 単位	実習

【概要】

急性状態の対象を総合的に理解し、健康状態の急激な変化を起こす時期に、生命を維持し、健康の回復を促す看護を実践できる能力を養う。

【目標】

1. 急性期にある対象の特徴と、健康障害による生活・役割などへの影響を理解する。
2. 対象の個別的な健康問題を抽出し、対象が自ら健康を回復・維持するよう看護計画を立案する。
3. 対象が自ら健康を回復・維持するよう、対象の状態に合わせた看護を実践し、評価する。
4. 保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、主体的に行動する。
5. 対象への看護実践を振り返り、看護観を再構成する。

【授業内容】

急性状態の患者を身体的・精神的・社会的に統合された生活を営む存在として理解し、健康状態の急激な変化を起こす時期において、生命を維持し、健康回復を促す看護を学ぶ。

学生が受け持つ急性状態の対象は、基本的に手術療法を受けた対象とする。ただし、受け持てない場合には侵襲的治療を受けている対象、急性疾患の発症後、外傷、慢性疾患の急性増悪の対象などを受け持ち、急性期看護を実践することとする。

【教授方法】

実習

【評価方法】

実習リポート　実習評価表　実習時間

【備考】実習要項、各実習棟オリエンテーション綴りを参照すること

科目名	担当者	実務経験
成人看護学実習Ⅲ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類
3 年次	45 時間/1 単位	実習

【概要】
成人期の対象を生活者であることを捉え、生活習慣・職業・ストレスが健康に及ぶす影響を理解する。そして、成人期の対象が主体的に健康を保つ重要性と成人の健康を支援する看護のあり方について学ぶ。

【目標】
1. 成人期の対象の健康に向けての行動をアセスメントする。
2.成人期の対象の健康課題達成に向けて、指導計画を立案し、ロールプレイにて保健指導を実施する。
3. 成人期の対象に適応される理論等を用いた健康行動を促進する効果的なアプローチについて具体的実践場面をふまえて考察する。

【授業内容】
人間ドックを受ける対象や事例を基に、生活習慣・職業・ストレスが健康に及ぼす影響について考え、健康指導計画を立案することで、健康を保持・増進および疾病の予防に向けての効果的なアプローチの方法を考える。

【教授方法】
実習

【評価方法】
実習リポート　実習評価表　実習時間

【備考】実習要項を参照すること

科目名	担当者	実務経験
成人看護学実習Ⅳ	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類
3 年次	45 時間/1 単位	実習

【概要】

クリティカルケアが提供される場や対象の特徴を理解し、生命と生活の質、尊厳を守る看護について学ぶ

【目標】

１．クリティカルケア看護が提供される場の特徴について知る。
２．クリティカルな状況にある対象の身体・精神・社会的特徴を知る。
３．対象の生命と生活の質、また尊厳を守るために行われている看護について知る。
４．保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、主体的に行動できる。
５．成人看護学実習Ⅳを振り返り、クリティカルケア看護のあり方を考察する。

【授業内容】

１）指定されたグループに分かれ手術室、救急外来、集中治療室に、指定された時間に見学実習を行う。
２）手術室、救急外来、集中治療室の見学実習は、臨地実習指導者の指導下で行う。
３）術後患者の看護計画を立案し、クリティカルケア看護を一部実践する。

【教授方法】

実習

【評価方法】

実習記録　術後の看護計画　術後の看護実践後の記録　実習リポート　実習時間

【備考】実習要項、各実習棟オリエンテーション綴りを参照すること

科目名	担当者	実務経験
老年看護学実習	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類
3年次	90 時間/2単位	実習

【概要】

人生における最終の段階にある老年者を受け持ち、対象を理解し、その人の持つ力を活かし、個別性のある看護を実践する。人生最期の発達段階にある老年者から、ただ長く生きてきただけでない老年者の人生について学ぶ実習にする。

【目標】

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、老年期における看護のあり方を考える。
2. 自己の看護観に基づいて、対象を総合的に理解し、必要な看護を実践する。
3. 看護技術を安全安楽に実施する。
4. 保健医療福祉チームの一員として、看護師の役割と責任を認識し看護する。

【授業内容】

講義で学んだ老年者の特徴について、受持ち患者を通して理解する。また、自己の看護観を基に、対象を総合的に理解し、必要な看護を実践する。その際、個別のカンファレンスやグループカンファレンスを活用し、老年者の理解を深める。また、チームカンファレンスを活用し、様々な意見をもとに、よりよい看護を追求する。

老年者の特徴を踏まえ、看護技術を実践することにより、相手にあった安全・安楽な技術を実施できる力を身につける。

また、自己の考える看護を、実践を通して再考し、看護観を深める機会にする。

保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と責任を考える機会にする。退院調整を体験できる機会があると良い。

【教授方法】実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】出席・評価表・実習記録・レポート

【備考】

科目名	担当者	実務経験
小児看護学実習	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
3年次	90時間/2単位	実習

【概要】

健康な子どもの理解をベースに、様々な健康レベルや成長発達段階にある子どもと家族に必要な看護を学ぶ。また、実習を通して、対象に寄り添える能力を深め、子どもと家族を中心とした小児看護のあり方について考える。

【目標】

1. 健康な子どもの成長発達と日常生活を理解する。
2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。
3. 対象の成長発達、健康レベルに応じた看護を理解する。
4. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と責任を認識し看護を行う。
5. 実習を通して、小児・小児看護について考える。

【授業内容】

＜保育所実習＞

保育所における保育の実際を通して、健康な子どもの成長発達と日常生活を理解する。

＜小児病棟実習＞

健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、成長発達・健康レベルに応じた看護を学ぶ。

＜NICU 実習＞1日

NICU の実際を通して、低出生体重児の看護について考える。

【教授方法】

実習 （保育所・小児病棟・NICU 棟）

DVD 視聴

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

出席時間、評価表、実習記録、レポート

【備考】

科目名	担当者	実務経験
母性看護学実習	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類
3年次	90時間/2単位	実習

【概要】

周産期における母子とその家族の健康課題を理解し、母子とその家族に必要な看護を行う基礎的能力を学ぶ。ウエルネスの視点で母子とその家族を総合的にアセスメントし、児の誕生により変化した役割や生活に適応できるように、母子とその家族に必要な支援のあり方について学ぶ。妊娠・分娩、新生児を通し、命の尊さを感じ、母性や家族について改めて考える機会とする。

【目標】

1. 周産期にある母子とその家族の特徴をふまえ、母子とその家族に必要な看護がわかる。
2. 保健医療チームの一員として、看護者の役割と責任を認識し行動する。
3. 実習を通して、母性看護と生命の尊厳と自己の母性・父性（親性）について考える。

【授業内容】

1. 学内実習

妊娠期の事例を通して、妊婦の特徴と必要な看護がわかる。

DVD を視聴し、分娩期にある対象のお特徴を捉え、必要な支援を考える。

2. 臨地実習

①受け持ち褥婦を通して、産褥期にある対象の正常な経過がわかる。また、褥婦とその家族の変化した役割と生活に適応し、自ら健康を回復・増進するための看護を、シャドーイング実習を通して理解する。

②受け持ち新生児を通して、新生児の生理的変化がわかる。見学を通して、新生児に必要な看護と配慮点がわかる。

4. 母性看護学実習を通して、母性看護のあり方とともに生命の尊厳と自己の母性・父性（親性）について考える。

【教授方法】

実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

実習リポート　評価表　実習時間

科目名	担当者	実務経験
精神看護学実習	専任教師	○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
3年次	90時間/2 単位	実習

【概要】

精神活動に障害のある対象の理解を深め、精神の健康回復への援助過程を通して看護者の役割を理解する。

【目標】

1. 精神活動に障害のある対象を理解する。
2. 対象の健康が回復・維持されるよう個別的な看護を展開する。
3. 対象との相互作用を通して自己洞察し、患者−看護者関係を成立・発展させるための方法を理解する。
4. 保健医療福祉チームの一員として、看護者に必要な基本的態度を認識し行動する。
5. 看護実践を通して、看護について考える。

【授業内容】

精神障害をもつ対象を受け持ち、精神障害者の理解と対象に合わせた看護を展開する。対象との相互作用を通して、自己の考え方や行動について振り返る。また対象との関わりについてプロセスレコードの分析を行い、自己のかかわり方の傾向と課題を見い出しながら、対象との関係の成立・発展の方法を考える。

【教授方法】

実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

出席時間　実習評価表にもとづき評価する

【備考】

新潟県立精神医療センターで実習を行う

科目名　看護の統合と実践 統合実習	担当者 専任教師	実務経験 ○

年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類
3 年次・後期	90 時間/2 単位	実習

【概要】

一人の対象への看護を展開する能力を基盤に,複数対象を受け持つ際の優先順位の決定,時間管理と安全に援助する方法,チーム医療における看護師のメンバーシップ,リーダーシップ,多職種との連携,協働のあり方について考える。また,対象の尊厳を守り自律性をもつ看護専門職に向けての自己の課題を導きだすとともに,学びの総括として,自己の看護観を構成する。

【目標】

1. 複数対象に対し,安全かつ継続した看護をおこなう方法について述べる。
2. チーム医療における看護師のメンバーシップおよびリーダーシップ,多職種連携,協働のあり方について述べる。
3. 急性期病院における看護師の専門性とリーダーシップについて知る。
4. 対象の尊厳を守り自律性をもつ看護専門職に向けての自己の課題と方向性を述べる。
5. 自己の看護観と今後の方向性について述べる。

【授業内容】

臨地実習では,病棟において複数の患者を受け持つ看護師にシャドーイングし,どう考え行動したのか(行為の中のリフレクション reflection-in-action),そのプロセスを知る機会を設け,臨床における学びを得られるよう実習を構成する。

【教授方法】

実習

【使用テキストと参考文献】

【評価方法】

参加度,レポート

【備考】